

ORT Nano Fucose(海藻糖鎖エキス)を軸とした

末期医療での Dr.観察レポート

- ※ 臨床医学的な根拠ではありません
- ※ 効果を保証するものではありません
- ※ 様々な療法を組み合わせた観察です

# 症例報告(末期医療での観察結果)

平成19年6月13日

海藻エキスの飲用についてはどの症例も、夜に50cc、日中に30ccとした。(1日に80cc)

がんの部位	ステージ	クリニック	年齢	性別	期間		特記事項	判定
1 大腸がん、肝臓転移	IV	CL	53歳	男性	4ヶ月	継続中	抗がん剤の副作用が軽減されたと、患者さんの実感。また、脱毛した後の髪の毛の復活までの時間が早くなったのでうれしい、と。	不明
2 中咽頭がん		CL	52歳	女性	4ヶ月	継続中	平成18年9月に放射線治療。12月に手術の予定であったが、延期となり、平成19年1月に来院時には頸部リンパ節に2センチ大の腫瘍が確認されたが現在1cm~5mm程度に縮小。	有効
3 すい臓がん		CL	67歳	女性	4ヶ月	継続中	平成18年7月に腫瘍マーカーが400以上あり、放射線治療と抗がん剤治療(ジェムザール)をおこなうも漸減なし。飲用後CA19-9、シアセチルスヘエルミン共に低下し改善傾向。	有効
4 胃がん	IV	ホスピス	75歳	男性	2ヶ月	死亡	特になし	無効
5 中皮腫		CL	76歳	女性	2ヶ月	継続中	体調は大きく変わらない。これまでずっとアガリクスを飲用していたが、今回よりフコイダンに変更	不明
6 盲腸がんで、肝臓転移。がん性腹膜炎	IV	ホスピス	74歳	女性	2ヶ月	死亡	平成18年3月に手術して、抗がん剤治療。その後転移が見つかり、抗がん剤を変更して治療。副作用が強くて、治療を中止。丸山ワクチンで経過をみていたが、平成19年1月にホスピスに入院	無効
7 肺がん	IV	ホスピス	70歳	男性	1ヶ月	死亡	リンパ球の数が低下しなかった	無効
8 胃がん、肝臓転移	IV	ホスピス	55歳	女性	1ヶ月	継続中	特になし	不明
9 肺がん	IV	ホスピス	52歳	男性	3週間	継続中	食欲が改善した	不明
10 肺がん	IV	ホスピス	55歳	男性	2週間	死亡	特になし	無効
11 前立腺がん		CL	76歳	男性	2週間	継続中	特になし	有効
12 すいがん、肝臓転移	IV	ホスピス	60歳	女性	2週間	継続中	抗がん剤の副作用による脱毛がほとんどおきなくなった。	不明
13 肺がん		ホスピス	60歳		2週間	死亡	特になし	無効
14 食道がん	IV	ホスピス	54歳	男性	1週間	死亡	特になし	無効

## 判定内容

- 有効:3 21.4% 腫瘍マーカーの低下や、CT画像で縮小が認められたものを有効とした。
- 無効:6 42.9% 腫瘍マーカーや画像で効果を確認できなかったものは全て無効とした。  
患者本人が体調の向上、QOLの改善を実感したのもでも今回はこの中に分類した。
- 不明:5 35.7% 現在継続中のもので、判定がしにくいものを不明とした

海藻糖鎖濃縮エキス評価シート Dr.用アンケート

年 月 日

施設名                      クリニック 担当医                     

患者様の情報  
年齢                      52才 性別 男・女

ガンの部位 1.胃 2.肺 3.肝 4.結腸 5.直腸 6.膵臓 7.食道 8.乳房 9.胆嚢  
10.リンパ腫 11.前立腺 12.膀胱 13.卵巣 14.子宮 15.骨髄性白血病  
16.骨髄及び骨  その他( 中咽頭癌 )

■病名 ( 中咽頭癌 ) ■ステージ 1.I 2.II 3.III 4.IV

■来院時の病状: 術前 2.術後 3.術後転移 4.手術不可

■来院時の所見: H.18.9にDx(                      ) Radiation  
12月にope予定を以て手術延期中。1月現在 頸部リンパ節2cmφ

腫瘍マーカーの推移	来院時	1ヶ月後	2ヵ月後	血液検査の推移	来院時	1ヶ月後	2ヵ月後
AFP				WBC	4900		
CEA				RBC	44.3		
CA19-9				Ht	42.2		
CA125							
NSE				AST(GOT)	16		
PSA				ALT(GPT)	11		
PIVKA-II				ALP	192		
SCC				LDH	200		
SLX				γ-GTP			
その他	<u>12月</u>			<u>Ca/Pa</u>	<u>100/72</u>		

現在の治療状況 1. 抗がん剤 2.放射線 <sup>後</sup> 3. その他( )  
使用薬剤 1. ( ) 2. ( ) 3. ( )

STEM01の使用状況 使用開始月日 19年2月3日 1日の処方cc×日数 夜(10)cc×昼(30)cc×( )日間

効果判定  
効果水準 1. 著効 2.有効 3. やや有効 4. 無効 5. 逆行  
副作用の有無 1. 下痢 2. 嘔吐 3. 吐き気 4. 発疹 5. その他( )

総括 自律神経変容治療. cytoC. 70mgに. 亜鉛  
と服用開始. 2から 頸部リンパ節は  
角径が2cmから1.5cm CTとE 1cm未満へ5mmφ  
程度に縮小(1)した. 体調はgood.  
opeは延期. 2月まで  
TS-1 2回24時間 - 10月服用中止. 2月まで

海藻糖鎖濃縮エキス評価シート Dr.用アンケート

年 月 日

施設名                      クリニク 担当医                     

患者様の情報

年齢                      67才 性別 男・女

ガンの部位 1.胃 2.肺 3.肝 4.結腸 5.直腸 6.膵臓 7.食道 8.乳房 9.胆嚢  
10.リンパ腫 11.前立腺 12.膀胱 13.卵巣 14.子宮 15.骨髄性白血病  
16.骨髄及び骨 17.その他( )

■病名 ( Pancreas cancer ) ■ステージ 1.I 2.II 3.III 4.IV

■来院時の病状: 1.術前 2.術後 3.術後転移 4.手術不可

■来院時の所見: H.A. 7. CA19-9 0.400以上あり                      e 27-2-

上記疾患 Dr. Radiation 13回 Gemzar 投与。当初 初期に  
戻り込み。治療可能なと判断し 2006.12.11. CA19-9 (192) 2月に入。2007.7.29.服用開始

腫瘍マーカーの推移	2007			血液検査の推移	来院時	1ヶ月後	2ヵ月後
	来院時 1/16	1ヶ月後 <u>(3A)</u>	2ヵ月後 <u>(4A)</u>				
AFP				WBC			
CEA				RBC			
CA19-9	111	103	81	Ht			
CA125							
NSE				AST(GOT)			
PSA				ALT(GPT)			
PIVKA-II				ALP			
SCC				LDH			
SLX				γ-GTP			
その他	<u>2/3</u>		<u>2/3</u>				

現在の治療状況 1.抗がん剤 2.放射線 3.その他( )

使用薬剤 1. (Gemzar) 2. ( ) 3. ( )

STEM01の使用状況 使用開始月日 19年2月3日 1日の処方cc×日数 夜(50)cc×昼(30)cc×( )日間

効果判定

効果水準 1.著効 2.有効 3.やや有効 4.無効 5.逆行

副作用の有無 1.下痢 2.嘔吐 3.吐き気 4.発疹 5.その他( None )

総括 自律神経治療と Gemzar. Vit C 投与  
開始12回 CA19-9 は当初 100以下12回 (Gemzar投与後)  
はらばらに 漸減に集まる。5月9 CA19-9 更に下が  
art Ope も可能と判断される。4.2.2

シプレニドールも減少しており 副作用改善傾向の伺える



\*\*\* 検査結果時系列 報告書 \*\*\*

出力日時： 2007.01.22 10:46 1 / 1

出力者：

患者番号：  
患者氏名：  
生年月日：1944.02.22  
性別・年齢：男・62歳11ヶ月

診療科：泌尿器科  
担当医：

昭和大学 荏  
〒142-8666 東京都品川区旗の台1丁目5番8号  
電話番号03-3784-8000 (代表)

検査項目名称	基準値	2006年	2006年	2006年	2006年	2006年	2006年	2006年	2006年
		7月12日	8月7日	9月4日	9月11日	10月2日	10月30日	11月27日	12月25日
AST (GOT) (IU/l)	10-30	25	20	40	32	32	26	27	31
ALT (GPT) (IU/l)	5-25	21	23	64	52	45	39	30	35
ALP (IU/l)	100-350	378	****	1139	1215	764	462	390	339
γ-GTP (IU/l)	10-40	24	25	29	****	28	****	28	26
高感度PSA (ng/ml)	4.0以下	**** 22.0	**** 430	**** 8.8	****	1.57	****	0.804	0.576

↑ 8/10 ~  
Stems: 100cc/day  
セレニウム 200μg/day

\*\*\* 検査結果時系列 報告書 \*\*\*

出力日時： 2006.09.11 10:06 1 / 1

出力者：

患者番号：  
患者氏名：  
生年月日：1944.02.22  
性別・年齢：男・62歳

診療科：泌尿器科  
担当医：

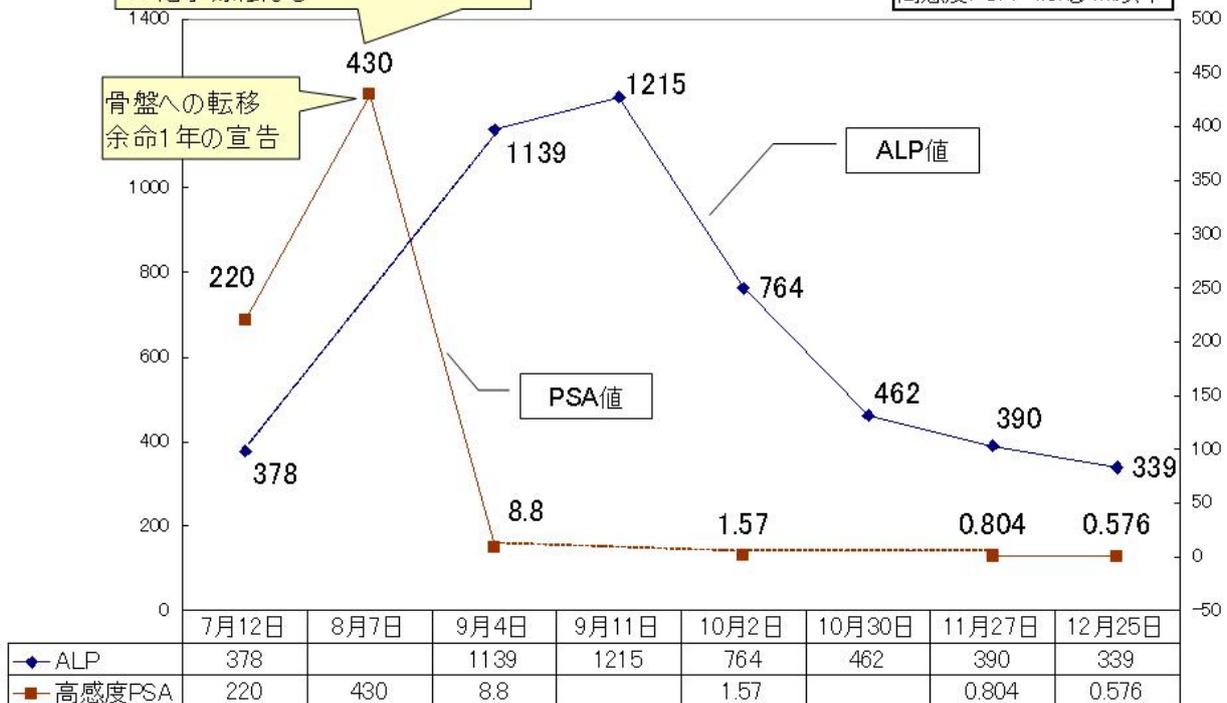
昭和大学 荏  
〒142-8666 東京都品川区旗の台1丁目5番8号  
電話番号03-3784-8000 (代表)

検査項目名称	基準値	2006年	2006年	2006年
		7月12日	8月7日	9月4日
PSA (RIA) (ng/ml)	4.0以下	220	430	8.8

糖鎖エキス100ml/day  
セレニウム200μg/day 飲用開始  
※化学療法なし

骨盤への転移  
余命1年の宣告

基準値	
ALP	100-350IU/l
高感度PSA	4.0ng/ml以下



HCC（肝細胞癌）末期医療における症例

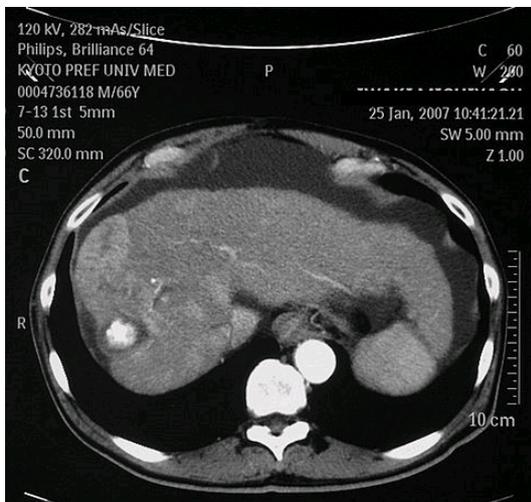
多発した HCC（肝細胞癌）、腹膜播種、門脈内浸潤状態の 66 歳男性の症例。2007 年 1 月 11 日時点の腫瘍マーカー  $\alpha$ -FP が 7649ng/ml で PIVKA2EC が 30900mAU/ml と高値。前後に化学療法を一切おこなわず 2007 年 2 月末頃から 2 種類のサプリメント（海藻糖鎖エキス+セレンウム）飲用しコントロール。2007 年 6 月 1 日に  $\alpha$ -FP が 10.2ng/ml で PIVKA2EC が 91mAU/ml と軽減。メカニズムやアカデミックな作用機序は不明だが 2007 年 10 月 4 日現在、内臓起因の愁訴はなく、日常生活を送っている。

【血液データの変遷】2007 年 1 月～8 月

検査項目	横浜えきさい会病院				基準値/単位
	H19.1.16	H19.5.11	H19.6.1	H19.8.31	
1 TP	8.1	7.9	8.4	8.4	6.3~8.3g/dℓ
2 ALB	3.4	3.2	3.4	3.6	3.5~5.0g/dℓ
3 A/G比	0.7	0.68	0.68	0.75	1.20~1.80
4 LDH	188	329	320	295	150~440U/l
5 AST(GOT)	96	64	68	38	8~37U/l
6 ALT(GPT)	41	50	43	28	5~42U/l
7 ALP	679	345	350	296	100~340U/l
8 $\gamma$ -GTP	280	52	59	55	0~70U/l
9 ChE		0.49	0.55	0.59	0.60~1.40 $\Delta$ pH
10 T-BiL	0.7	0.5	0.5	0.7	0.2~1.2mg/dℓ
11 D-BiL	0.2				0.0~0.4mg/dℓ
12 BUN	19.1	22	26	20	8~20mg/dℓ
13 CRE	1.0	1.4	1.9	1.9	0.6~1.1mg/dℓ
14 UA		9.9	10.8	11.4	2.5~8.0mg/dℓ
15 TC		134	140	155	130~230mg/dℓ
16 TG		110	206	149	50~160mg/dℓ
17 Amy		292	304	295	100~440U/l
18 Glu	128	110	125	112	70~110mg/dℓ
19 Na	139	137	140	138	135~147mEq/l
20 K	4.0	4.7	4.9	5.3	3.6~5.0mEq/l
21 Cl	109	108	109	107	98~108mEq/l
22 Ca					8.4~10.2mg/dℓ

検査項目	横浜えきさい会病院				基準値/単位
	H19.1.16	H19.5.11	H19.6.1	H19.8.31	
23 WBC	55	40	42	48	34~94 $\times 10^3/\mu\ell$
24 RBC	439	360	378	433	400~530 $\times 10^4/\mu\ell$
25 Hgb	12.9	9.8	10.2	10.8	13.7~17.4g/dℓ
26 Hct	40.6	30.5	32.9	35.8	38.0~49.0%
27 MCV	92.5	84.7	87.1	82.7	86~104fl
28 MCH	29.4	27.1	27.0	25.1	27.5~36.8Pg
29 MCHC	31.8	32.0	31.0	30.3	31.3~36.6g/dℓ
30 PLT	14.6	12.0	11.9	11.0	14.0~40.0 $\times 10^4/\mu\ell$
31 Neutro	64.9	48.8	46.9	45.0	38~62
32 Lymph	24.7	37.8	35.9	41.4	20~50
33 Mono	7.1	8.0	11.3	8.9	2~20
34 Eosino	2.4	4.2	4.2	3.2	0~7
35 Baso	0.9	1.2	1.7	1.5	0~2
AFP( $\alpha$ -FP)	7,649	11.6	10.2	12.3	10ng/ml以下
PIVKA II	30,900		91		40mAU/ml未満

【2007 年 1 月 25 日 CT 画像（京都府立医科大学）】【2007 年 5 月 11 日 CT 画像（横浜えきさい会病院）】



海藻糖鎖濃縮エキス評価シート Dr.用アンケート

H19 年5月30日

施設名                      クリニック 担当医                     

患者様の情報

年齢 58才 KY 性別 (男)・女

ガンの部位 1.胃 2.肺 3.肝 4.結腸 5.直腸 6.膵臓 ⑦食道 8.乳房 9.胆嚢  
10.リンパ腫 11.前立腺 12.膀胱 13.卵巣 14.子宮 15.骨髄性白血病  
16.骨髄及び骨 17.その他( )

■病名 (食道癌(胸部) <sup>放射線</sup> <sub>治療</sub>) ■ステージ 1.I 2.II 3.III 4.IV

■来院時の病状: 1.術前 2.術後 3.術後転移 ④手術不可

■来院時の所見: 嚔声あり(反回神経の圧迫か、放射線の副作用か)。口から出血もよく出る。  
夜間ときどき発熱あり。主治医の病歴で、肝硬変あり、糖尿病あり、高血圧あり。  
食道がんもインパナル。成人病センターで今年1月末まで27回、担当を替り、「こたはららう」と治療を  
終了。主治医病院は、治療中にもまのひ好きにわがわが、免疫を訪問し奥様が相談に来られた。  
この間「ステロイド」4瓶 閉鎖的に服用 ← 3/6(2)の  
10/2Wの  
AS20  
LAK療法  
が効果あり

腫瘍マーカーの推移	来院時(3/20)	1ヶ月後	2ヶ月後(5/2)	血液検査の推移	来院時(3/20)	1ヶ月後	2ヶ月後(5/22)
AFP				WBC	4300		4500
CEA	17.2(3/20)		7.5(5/2)	RBC	314		357
CA19-9				Ht	32.3		34.5
CA125							
NSE				AST(GOT)	66		52
PSA				ALT(GPT)	36		30
PIVKA-II				ALP	481		385
SCC				LDH	425		272
SLX				γ-GTP	57		164?
その他 CRP	1.27(3/20)		0.32(5/2)				

現在の治療状況 1.抗がん剤 2.放射線 3.その他(免疫細胞(CD3-LAK 2W=1回))

使用薬剤 1.( ) 2.( ) 3.( )

STEM01の使用状況 使用開始月日 1日の処方cc×日数

H19年3月28日夜(夜) 夜(50)cc×昼(40)cc×(6)日間 = 540cc(1瓶)  
4月3日朝(朝) X 47-11  
(LAK4回)合計22  
4瓶消費

効果判定

効果水準 1.著効 ②有効 3.やや有効 4.無効 5.逆行

副作用の有無 1.下痢 2.嘔吐 3.吐き気 4.発疹 5.その他(なし)

総括 使用状況に記すごとく、朝20 昼20 夜50 計90cc/日×6日 = 540cc(1瓶ASIL)  
を2週に1本のCD3-LAK治療日(点滴)の朝まで飲んで、次のLAK点滴日に次の1瓶を  
飲み終るように、断続的に免疫細胞治療の基礎療法として一定のリズムで使用し、  
4回のfree sampleを使用し終了。次の2本を有償で自宅へステロイド処方して頂いた。  
主治医病院へは1月のno-st受診12回か、主治医が2ヶ月毎に元気に帰って行く患者のことで  
不思議がっていた。奥様の少少はかきと心臓に去る、2瓶入りの口呼吸は2瓶から4瓶  
γ-GTPの上昇以外に全卵高血圧の傾向が沈静化しており良好に一般状態を反映(H19.5.30記)  
12112.